

「日本コエンザイムQ研究会」発足

正しい知識の普及と研究奨励

日本コエンザイムQ協会(理事長・山本順寛東京大学大学院工学系研究科助教)が十一月一日付で発足した。同協会はコエンザイムQに関する正しい知識の



普及とそれに必要な科学的研究を奨励するために設立されたもので、十一月六日に記者発表した山本理事長はコエンザイムQについて「第一線の抗酸化物質」としたうえで、抗酸化作用を持つビタミンEとの関係についても「コエンザイムQが存在しないとビタミンEは一〇〇%の力を発揮できない」と指摘。「高齢化社会の切り札的存在として位置付けられる」とした。

記者発表会では永田勝太郎理事(浜松医科大学保健管理センター講師)が医学的側面からコエンザイムQについて解説。同氏は「コエンザイムQ10は体力・気を補う薬剤・サプリメント。最高の補剤として位置付けることができる」と述べるとともに「現代医学の欠点を補うことができる。全人的医療という文脈の中で使うべき」と語った。また、府川秀明理事(元埼玉大学地域共同研究センター客員教授)は昨年三月から食品に分類されたことから「新しいサプリメントとしての展開が期待できる環境ができた」と強調した。

コエンザイムQは細胞のエネルギー生産に不可欠な物質として一九五七年に見された。日本でのコエンザイムQの利用は世界に先駆けるもので、七四年からうっ血性心不全の改善薬として使われてきた。これまで医薬品としての使用にとどまっていたが、昨年三月の食薬区分の見直しにより、サプリメントとしての利用がスタート。量産化に成功しているのは国内五社のみで、日本発の物質としても注目されている。